

毎日タイムズ マシン

歴史が見えると、今が見える。



さあ、タイムズマシンに乗りこもう。
今日のテーマは？

女性

女性を取り巻く環境は、この140年で激しく変わった。教育、職業、政治……。明治維新、第二次大戦の敗戦という、国家システムの大きな変革に伴い、女性の社会進出は大きく進んだ。しかし、社会の仕組みがいくら整備されても、セクハラなど男女の性差による問題は後を絶たない。社会における男女格差は依然として残ったままだ。右上写真はサッカー女子W杯で優勝し喜ぶ日本代表「なでしこジャパン」＝ドイツ・フランクフルトで昨年7月17日撮影



1981.2
「婦選運動」原点

市川房枝さん死去

婦人の地位向上と政界浄化に半世紀を超える情熱を傾け続けた参院議員、市川房枝さんは1月16日、心臓発作で倒れ、東京都渋谷区広尾、日赤医療センターに入院中だったが、11日午前7時13分、心筋こうそくのために死去した。87歳。

市川さんはわが国最年長の国会議員で財団法人、婦選会館理事長、理想選挙推進市民の会代表幹事、日本婦人有権者同盟名誉会長、民主政治をたてなおす市民センター代表として活動してきた。

明治26年、愛知県に生まれ、愛知女子師範卒。小学校教員、新聞記者を経て、大正8年、平塚らいてうらと新婦人協会を設立、同13年には婦選獲得同盟を創立し、婦人の参政権獲得運動に取り組んだ。

33台衝突、4人死ぬ
知事不信任案を否

1981年2月12日

市川房枝さん死去

第二次大戦後は新日本婦人同盟の会長として婦選会館の建設に尽力。昭和22年に「戦時中、言論報国会の理事だった」という理由で、公職を追放されたが、28年、参院選に初当選（東京地方区）。その後金をかけず、連呼もしない理想選挙で3期連続当選を果たしたが、46年の選

掲載写真訂正中

選挙では落選した。高齢なこともあって、一時政界引退を決定したが、若い市民運動家らに繋がれて、49年には全国区に転じ、2位で返り咲き。昨年6月の参院選でも同じ理由で立候補を辞退したが、支持者たちの熱い声援に押し出されて立候補、全国区でトップ当選を果たし健在ぶりを示した。

この間、連座制の公職選挙法改正、売春防止法の成立などにも尽力、反自民、無所属の立場を貫く参院二院クラブを結成した。42年の東京都知事選では故大内兵衛氏らとともに美濃部亮吉氏を擁立、初の革新都政誕生の原動力になった。

晩年は政界の浄化、社会の不正是正、人権擁護に積極的に取り組み、ロッキード事件、日商岩井事件、KDD事件と相次いだ政界の不祥事には怒りをたぎらせ「ストップ・ザ・汚職議員」運動の先頭に立った。

1946.4
婦人代議士誕生

戦後初総選挙で39人

全国的に婦人候補者の進出は著しい。殊に東京1区竹内茂代、山口シヅエ両女史、同2区加藤シヅエ女史は断然男子候補を引き離して午後2時早くも当選を確実にした。はじめての婦人代議士、民主にほんの行手にはこれら婦人代議士のなすべき仕事は山積している。3女史の事務所を訪ねそれぞれ抱負を聞いた。

加藤シヅエ女史は夫君加藤勘十氏も愛知県で当選確実の報を得て、久しぶりに愛児多喜子ちゃんを抱いたり、台所へ出たり電話口に立ったり、来客に会ったり家庭と婦人代議士とのかけもちで大奮闘。

私に弾で

1946年4月12日

炭鉱王と美人歌人

燐子(あきこ)！ お前が俺(わし)に送った絶縁状というものはまだ手にせぬが、もし、新聞に出た通りのものであったら、随分、思い切った侮辱したものだ。見る人によったら、伊藤は女に筆で殺されたというだろう。妻から良人(おと)へ離縁状を叩(たた)きつけたということも初めてなら、それが、本人の手に渡らない先に、堂々と新聞紙に現れたというのも、不思議なことだ。俺は記事を読んで一時はかなり興奮した。しかし、今は少し落ち着いて、静かに考えるとお前という、一異分子を除き去った伊藤一家が、いかに今後円満に、一家団圓(だんらん)の実を享

?もっと知りたい!

戦後初の総選挙は1946年4月10日に行われた。戦後初の国政選挙であると同時に、旧憲法下、帝国議会の最後の総選挙だった。帝国憲法下での選挙だったが、占領軍の命令、指導によって選挙法規は戦前とは大幅に変化し、婦人の選挙権が認められ、有権者の年齢が25歳から20歳へと引き下げられた。選挙の結果、社会党が一挙に第3党となったほか、初の女性議員が39人誕生した。記事で紹介された加藤シヅエ(1897~2001年)もその一人。戦前から婦人解放運動、産児制限運動を進めてきた。「一足飛びに大臣になったら何の大臣を望むか」と聞かれ「外務大臣と厚生大臣。この線に沿って婦人のする仕

事が一番たくさんあるのだと思います」と答えている。

誕生したばかりの婦人代議士27人が婦人議員クラブを結成。立っているのが加藤シヅエ＝1946年4月26日撮影

1921.10
離婚巡り公開「闘論」

女子の高等教育主張

我が国の婦人界は人の視聽を引く鮮やかな現象に乏しいので毎年同程度の平調な経過を取って行くように思われますけれど、7、8年前の婦人界を顧みて比較するとその変化の非常なのに驚かれます。例えば小松英太郎氏が文部大臣であった頃と今日との教育主義はどうでしょう。あの頃は世界の犬勢に逆行し併せて我々若い婦人の内部

1916年1月1日

炭鉱王と美人歌人

げ得るかということも思っかえって、俺自身としては将来に非常な心安さを感じている。

来年は俺も還暦だ。だんだん年齢をとったから、伊藤家を、合資組織にして、お前に対する俺の没後の財産処分方法を考えていたところであったが、それも、もういらぬ事になった。俺の一生の中に最も苦しかった10年を一場の夢と見て、生まれ変わったつもりで、すべてを、立て直そう。

「燐子！」と呼びかけられているのは大正三美人の一人とされる歌人、柳原白蓮(1885~1967年)のこと。伯爵家に生まれ、1911年、27歳で52歳

?もっと知りたい!

の「九州一の炭鉱王」伊藤伝右衛門と再婚するが、東京帝国大学法学部の学生、宮崎龍介と恋愛関係になり、21年10月に家出。大阪朝日新聞に「私は金力を以て女性の人格的尊厳を無視する貴方に永久の訣別を告げます」と書いた公開絶縁状を掲載したことから大スキャンダルになった。ライバル紙の大阪毎日新聞は伊藤に取材し、聞き書きの形で反論の手記を掲載した。姦通(かんつう)罪が存在した当時、白蓮の行動は激しい非難を浴びたが、伊藤と離婚後、白蓮は弁護士となった宮崎と結婚し、天寿を全うした。

柳原白蓮

1916.1
与謝野晶子が寄稿

女子の高等教育主張

我が国の婦人界は人の視聽を引く鮮やかな現象に乏しいので毎年同程度の平調な経過を取って行くように思われますけれど、7、8年前の婦人界を顧みて比較するとその変化の非常なのに驚かれます。例えば小松英太郎氏が文部大臣であった頃と今日との教育主義はどうでしょう。あの頃は世界の犬勢に逆行し併せて我々若い婦人の内部

1916年1月1日

女子の高等教育主張

要求を無視した旧式な賢母良妻主義が一般女子教育家の聰明を脅かして、近く叙勲された女流教育家達などがあわてて「女学生可(べ)からず訓十箇条」を制定するような状態であったのです。そういう保守的逆潮に対して微力の許す限り不承認の意向を述べた私などは大分厭(いや)な批難を古い人達から受けたようでしたが、今日ではどの有力な教育家も賢母良妻主義以上の教育を主張しない者は殆(ほとん)ど無く、文部大臣自ら学制改革案で女子大学の必要を公認し、また途中で遭う男子に目も触れるなど教えた当年の「可からず訓」制定者達が若い婦人を指揮して街頭に立ち、通行の男子を呼びかけて花を売るという有様にまで変わっております。

?もっと知りたい!

与謝野晶子(1878~1942年)は堺に生まれた戦前を代表する女流歌人。処女歌集「みだれ髪」で、大胆に女性の官能と情熱をうたい、明治浪漫主義の中心となった。「源氏物語」の現代語訳でも知られる。

女性の自立を求める評論も数多く残しており、1916年の元日紙面で137全面を使い、女子高等教育の必要性などを訴える主張を展開した。理想の教育を実現するため、21年、西村伊作や夫の与謝野鉄幹らと東京・御茶ノ水に文化学院を設立、日本初の男女平等教育を実施した。

与謝野晶子

1912.10
「新しい女」論争

1912.5
「故郷」上演禁止

1899.3
帝国婦人協会設立

1873.3
簾、鉄漿廃止

次回のテーマは「ベストセラー」

文芸雑誌「青鞥」巡り

1912年10月25日

ノラやマグダが問題になる。新しい女、覚めたる女、自覚した女、新時代の女、いろいろの言葉をもって一部の婦人と呼ばれる。中には青鞥社のお嬢さん達が一番世間の注目をひいている。それはお嬢さん達のあらゆるない鴻の巣で五色の酒を呑(の)む。吉原へ遊びにいった華魁(おいらん)とおなじみになる。浅草十二階下の白首(しろくび=売春婦のこと)とお友達になるというような噂(うわさ)がパツと立ったからいよいよ問題となって、同社の機

関雑誌「青鞥」がにわかに売れ出す一方には古風な家庭で娘達に「青鞥」の購読を禁ずるといふような有様となった。青鞥の女といふは毎日酒を呑んでブラブラやって生意気な事ばかり言っているように聞こえるが社則ともいふべきものを読むと「本社は女流文学の発達をはかり各自天賦の特性を發揮せしめ他日女流の天才を生む事を目的とす」と極めて生真面目のものである。ところで現代の婦人の間に日ごと勢力を伸ばしつつある「青鞥」の女はいかに生活しつつあるか、そしてその結社なるものは如何なる組織であるか、ぜひとも調べてみる必要があると思う。



青鞥創刊号の表紙

内務省が「反社会的」

1912年5月21日

文芸協会脚本「故郷」は、有楽座の興行終了と同時に、警視庁はその興行禁止を命ぜり。理由とする所について、当局者は日(いわ)く、内務省警保局の図書取締りの根本義は教育勸語にあり、勸語の骨子とも見るべきは忠孝の2字にして、ここに根柢を置きたるものなれば、いやしくもこれを破壊し背反するものは、我が国の社会に容るべ

からず。しかるに該脚本の女主人マグダなるものの言行は、まさしく孝道を忘却し、しかもコレに向かって懲悪の反証をも明示せざるものなれば、断じてこれを劇として社会公衆に観覧せしむべきにあらず云々。しかして同協会は、右の趣旨を体して早速脚本を改竄(かいざん)し、当局の検閲を経て、大阪において興行すべく目下準備中なり。(東京電話)

?もっと知りたい!

「青鞥」は1911年、女性解放運動家、平塚らいてうによって創刊された女流文芸雑誌。平塚が創刊号に書いた女権宣言「原始、女性は太陽であった」はあまりに有名。しかし、「良妻賢母」が理想の女性像だった当時、因習からの脱出を求め、自由な恋愛を賛美し、女性の解放を求める「青鞥」の主張は「日本婦人の美德を乱す」として警視庁から発行禁止などの取り締まりを受け、社会から激しいパッシングを受けた。記事もそうした動きの一つで、「青鞥」に代表される女性解放の動きを「新しい女」と揶揄(やゆ)し、8回にわたって批判した。記事書き出しにあるノラは、イブセン作「人形の家」の、マグダはスターマン作「故郷」の主人公。こうした批判に対し平塚は13年1月の「中央公論」に「新しい女」と題して反論を掲載。「新しい女は男の利己心のために無知にされ、奴隷にされ、肉塊にされた旧(ふる)い女の生活に満足しない。新しい女は男の便宜のために造られた旧き道徳、法律を破壊しようとして奮闘している」と戦闘開始を宣言した。

?もっと知りたい!

結婚しないまま母親となり、故郷に帰るが、父親はシングルマザーとなった娘を許すことができず、死んでしまうというあらすじだった。表現の自由が保障されていなかった戦前の日本では演劇も取り締まりの対象で、内務省は「故郷」が親孝行や夫婦の和ももった教育勸語の精神にそぐわない反社会的作品と判断、今後の上演禁止を命じた。島村抱月は原作にない、マグダが後悔する場面を最後に付け加えて、上演の認可を得た。



松井須磨子 1907年10月撮影

女子に教育普及

1899年3月29日

近來女子教育の道ようやく開発の運びに進みつつあれど、多くは泰西(西洋)の風氣を直訳的に模倣したるものとて、これを實際処世の上に行わんと

せば、往々不適當の嫌いなきにあらず。上流の貴婦人等にありては、或いは不可なきやも知らざれど、中流以下の婦人にありては、他日人の妻たり母たるの曉に於いて、教育と實際との怪庭(隔たり)より、本人等のためにはほとんど耐うべからざる苦痛を感じるとともに、云(い)うべからざる社会の流弊を来たさんことを慮(おもんばか)り、よく彼我の長短を折衷して、我が国情に適すべき教育を施し、他日真に我が邦の良妻賢母たる教育を施さんと、このたび、下田歌子を首長となし、題号のとき会を設け、教育、文学、工芸、商業、救恤(きゅうじゅつ)の各部を置き、なお付属として下婢養成所も設く



下田歌子

?もっと知りたい!

下田歌子(1854~1936年)は、明治から大正にかけて活躍した女子教育家。明治初年、宮中の女官となり、和歌などの才能で昭憲皇后の寵愛(ちょうあい)を受け、華族女学校の教授になる。1893年から2年間、欧米の女子教育を視察し、日本での必要性を痛感する。帰国後、これまでも上流階級の婦人に偏っていた婦人団体の組織を広く一般に開放した全国組織、帝国婦人協会を組織し、会長に就任。さらに「新時代に生きる女性の教養とそれに裏付けられた実践力を身につけ、生活と社会の改善を図る」ことを目指し、実践女学校(現・実践女子大)を創設した。

文明開化で 美意識変化

1873年3月7日

皇太后宮、皇后宮、御簾(まゆずみ)、御鉄漿(おはくろ)廃され候旨、3月3日宮内省より仰出されしと也く皇太后(明治天皇の母=英昭皇太后)と皇后(明治天皇の妻=昭憲皇后)が簾と

鉄漿をやめられたと3月3日、宮内省から発表された。?

1868年、明治時代が幕を開けた。新しい国づくりを目指す新政府は欧米に倣って、国の近代化を推し進め、「文明開化」のかけ声とともに、国民全体に日常生活での西洋文化の取り入れを推奨した。街には髪を切った男性や洋装の人々が歩くようになり、女性の化粧も大きく変わった。結婚すると鉄分で歯を黒く染めるおはくろと、子どもを産むと眉をそり落としたりうでで改めて眉をかくまゆずみは、江戸時代、既婚女性を象徴する化粧法だった。来日した外国人の目に、この習慣は極めて奇異に映ったため、新政府はこれを廃止させようと計画した。しかし、黒い歯ではなく白い歯が美

しいという、これまでの美意識を180度ひっくり返す大きな転換で、これまでの習慣を急にやめさせることはできなかった。このため、宮中から率先して改めてもらうことにし、記事のような発表をした。これを契機に、自分の顔に似合った眉化粧と、自然な白い歯が美しいという美意識、価値観が広がっていった。



洋装した昭憲皇后

毎日タイムズマシンの過去掲載分は<http://mainichi.jp/sp/140times/>でご覧になれます

人間をみつめる。 京都で100年。

私たちは開学以来変わることなく 仏教精神に根ざした人間教育に力を注いできました。

「人は人に対して何が出来るのか」を 根源的な問いかけとし、社会の多様な分野で 人々に寄り添いながら活躍できる、 素晴らしい「佛教学士」を輩出していくこと。それが、今までも、これからも、本学の使命です。

本学を支えてくださった地域の方々、 学生のみならず、大学に携わってきた 先人の惜しみない努力に、 深い感謝の思いを持つと同時に、 「緑」の大切さをあらためて感じています。

感謝 ありがとう

学長 山極伸之

佛教学士は、2012年10月 開学100周年を迎えます。

仏教学部 / 文学部 / 歴史学部 / 教育学部 / 社会学部 / 社会福祉学部 / 保健医療技術学部

SINCE 1912 100th Anniversary

佛教学士

BUKKYO UNIVERSITY

〒608-8301 京都市北区紫雲寺 2 丁目 26 番 1 号 Tel: 075-491-2141 www.bukkyo-u.ac.jp